

## 飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 200 回 貧乏性の「<sup>ゴールデンウィーク</sup>黄金週間」～自分なりのパラドックス・シミュレーション

2007.5.6

「四六時中」という言葉がある。意味は、一日中のこと。昔は二六時中と言った。なぜなら昔の時間は子ノ刻、丑ノ刻というように1日を12刻に分けたから、 $2 \times 6 = 12$ 、今は24時間だから $4 \times 6 = 24$ 、ということらしい。

中小企業の経営者は、なんと寂しい存在であるか、今更ながら痛感する。文字通り「四六時中」、頭の中は仕事のことではいっぱいである。寝てみる夢も仕事のことであるならば、一体いつ、精神的にリラックスできるのであろうか？悲しい「<sup>まが</sup>性」と言わざるを得ない。

だから、この手の社長にとって、ゴールデンウィークは実に辛い時を過ごす事になる。毎日忙しく動き回る環境に慣れきってしまった、中小企業の社長は、動きながら考える体質に改善されてしまっている。連休だから、ゆっくり落ち着いて...と思ってみても、中々体と頭がついてこない。家族みんなでどこかへ行くとしても、頭の隅では、今月と来月の収支計算をし、会社の資金繰りの算段を計画し...こんなお父さんと連休を過ごす家族は、きっと、不幸なのかもしれない。ダメ親父の典型なのだろう。

もちろんすべての中小企業がそうではない。資金繰りを心配せず、堂々と利益を出している中小企業も沢山ある。そんな社長にとっては、貴重なリフレッシュ期間として、ゴールデンウィークは存在している。しかし、小生のような<sup>びんぼうしょう</sup>「貧乏性」で、先の先まで<sup>しんぱいしょう</sup>「心配性」の輩にとっては、何とも「しんどい」連休となる。

「それがダメなんだ！ やる時はやる、休む時はしっかり休む、そのけじめをきちんとつけないと、経営者としては失格である。なぜなら、経営者は決して一人の体ではない事、自分の家族はもちろん、従業員やその家族、多くのお客様に支えられ、今の経営が成り立っている。彼らに対する責任は、心身ともに健康で、健全な経営者としての存在であること、忘れてはならない。そのためには、体と心を「休ませる」ことの重要性を理解すべきである。」...偉いコンサルタントやカウンセラーの先生に聞くと、きっと決まって、こんな回答があるだろう。

そう、答えは決まっている。「わかっちゃいるけど、やめられない」、植木等のごとく、ス～イス～イス～ダララッタ...といけばいいが、中々現実的には難しい。

四六時中仕事のことを離れないのは、経営者として当たり前！と、まず、いい意味で開き直ってしまうこと。自分ひとりが苦しんでいる訳でなく、同様に努力している人がいること。悪い方にはばかり思考を持っていくことなく、**陽転思考**、考える視点を変えて解決策を見つけ出す、「必ずヒントはある」を目標に、自らのギアチェンジを図ること。そんなポジティブな自分を復権させる...そうするしかあるまいと思っている。一刻も早く仕事が見たい...それが叶えない、辛い、長いゴールデンウィークも、終わろうとしている。(ホッ)